

水の都の三島自慢 おもてなしの心得



富士の白雪ノ一エ
富士の白雪ノ一エ
富士のサイサイ
白雪朝日でとける
(農兵節の一節)



●三島市の概要●

面積■ 総面積62.13km²
東西11.107km、南北13.242km

人口■ 114,121人(平成17年7月31日現在)
44,687世帯



市の木●イチョウ

イチョウは、市制30周年を記念し市の花「三島桜」とともに、昭和45年10月11日に市の木に制定されました。現在、教育・文化施設がある文教町のイチョウ並木は、その代表的な存在となっています。



市の花●三島桜

市の花「三島桜」は、昭和35年に国立遺伝学研究所の竹中博士の研究により谷田城の内のソメイヨシノの実生から生まれ、竹中博士によって三島桜と命名されました。そして昭和45年市制30周年を記念して市の花としました。



市の鳥●カワセミ

カワセミは、市制60周年を記念し、平成13年4月29日に市の鳥に制定されました。全長は、約17センチできれいな水辺に住み川魚を食べます。市内では楽寿園や源兵衛川などで見かけることができます。

三島市は、静岡県東部の伊豆半島の玄関口に位置し、東は天下の景勝地箱根連山があり、北はその偉容を誇る富士の高峰を仰ぎ、南は太平洋に突き出した伊豆の温泉郷に連なり、西は沼津市に接しています。

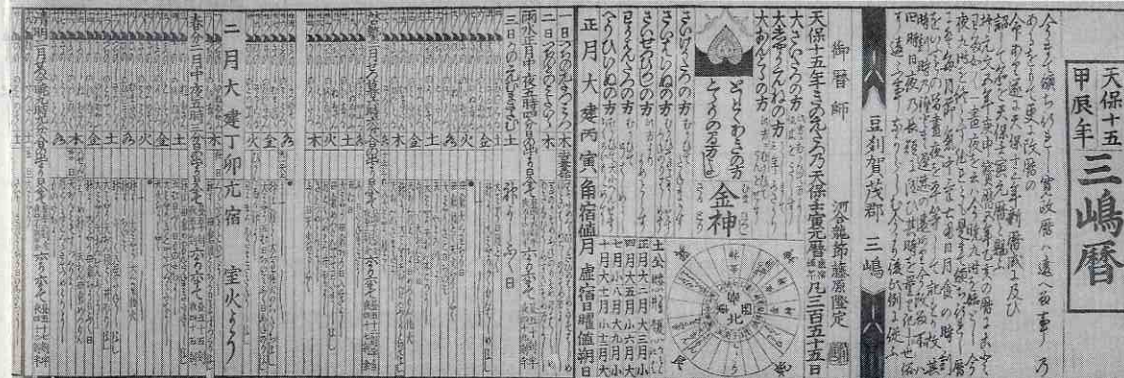
富士山の雪解け水が溶岩の中を延々と流れ、市内のあちらこちらから湧き出ています。三島市は、この豊富な湧水と清らかな流れが暮らしの中にとけこみ「水の都」といわれています。

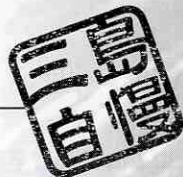
【表紙】初代広重「朝霧」

広重の五十三次の中でも代表作の一つ。朝霧の中を駕籠や馬で出立する旅人と人足たち。背後に影のように建つ三島明神(大社)の鳥居や灯笼、旅館。遠ざかる巡礼たちの鈴の音。気温が下がる秋の早朝の景色であろう。

【裏表紙】初代広重「東海道十二」

おもしろい三箇条
一、三島自慢のおもしろ
二、笑顔が一番
三、大事なのは
感謝の気持ち
四、決め手は
あつちのこと
五、主役はお客様





あ

愛染院跡 あいぜんいんあと

かつてこの地にあった愛染院は、真言宗高野山派に属し、三嶋大社の別当寺院で10数カ所の末寺を持つ、伊豆随一の大寺院であったと言われています。この愛染院が跡形もなく消滅してしまったのは、明治新政府が明治元年（1868）神仏分離令を発令したからです。

現在残っている溶岩塚は、約1万4千年前に、新富士の噴火活動によりできたものです。この溶岩塚を取り囲むようにケヤキやムクノキの大木が生い茂り、木の根が溶岩に絡み付くように地表に露出しています。この溶岩塚は、三島市指定文化財（天然記念物）に指定されています。



鮎返しの滝 あゆがえしのたき

文教町の上岩崎公園の横を流れる大場川は、市街地でありながら滝を眺められる場所として知られています。滝の西側（幸原側）の崖は三島溶岩であるのに対し、東側（老町田側）には、箱根火山の噴出物の層が見られます。地元ではこの滝を「鮎止めの滝」「大滝」とも呼んでいます。滝の高さは3~4mあります。その昔、この滝を登りきれないアユが群がっているのを見て、この辺りの人たちが名付けたものと思われま

す。公園側から見ると1段しか見えませんが、このすぐ上流部にも滝があり、実際は2段の滝になっています。

言成地蔵 いいなりじぞう

尾州藩浪士、尾張屋源内の娘小菊の霊を祀った地蔵堂です。浪士源内は二日町（現、東本町）に住み、猫師として生活していました。

貞享4年（1687）春、播州明石の城主松平若狭守直明の行列が三島宿にさしかかったとき、当時6歳の娘小菊は、道の向こう側にいました。これを見た母親は粗相があつてはいけな

いと思ひ、何気なく列を横切ったので、前駆が小菊を取り押さえてしまいました。驚いた町民たちは問屋役人、町名主、本陣などを総代とし殿様に命乞いをして聞かされました。

そこで大名と同格の10万石の格式をもつ玉澤妙法華寺の第24代住職日迅上人が、下座について助命を乞いましたが、それでも聞き入れられず、小菊は本陣庭先で手打ちされることになりました。その折、幼い小菊は手を合わせ、「なんでも殿様の言いなりになりますゆえ、命ばかりはお助けください」と懸命に頼みましたが、小菊の願いも空しく聞き届けられませんでした。

町の人がこれを憐れみ、小菊の霊を祀るための地蔵堂を建てました。今では、この地蔵に願いをかけると必ず叶えられると言われているそうです。

伊豆国分寺 いずこくぶんじ

もとの伊豆国分寺は、奈良時代、聖武天皇の命により奈良の東大寺を総国分寺として諸国に建てられた公の寺の1つでした。その時代は凶作が続く、地震などの天災もあり世情が不安定だったため、仏の力を借りて人々の不安を取り除こうと国ごとに国分寺が建てられました。

大変大きな伽藍だったと伝えられていますが、平安初期に焼失し、現在では礎石だけが残っています。昭和34年（1959）に、聖武天皇建立国分寺として国の史跡に指定されました。

うなぎ うなぎ

三島のうなぎ料理のおいしさの理由は、清らかな富士山の湧水にあります。

浜名湖などの産地から三島に運ばれてきた活きたうなぎは、1週間ほど餌なしで湧水にさらされます。この間にお腹に残った餌などが吐き出され、余分な脂肪も落ち、臭みが消えておいしくなります。「うなぎの味は水の良し悪しで決まる」と言われ、ミネラルを多く含む天然の水、三島の湧水は正にこの条件にぴったり合っているのです。

市内には多くの飲食店がありますが、そのうち約80軒がうなぎ料理を出しています。人口12万人に対し、その比率は全国1とも言えます。



か

上岩崎公園 かみいわさきこうえん

文教町の大場川沿い、上岩崎公園内には桜の木が数多く植えられていて、春はお花見が楽しめます。夏は、公園内にある上岩崎プールが子供たちの歓声でいっぱいになります。

上岩崎公園から、大場川を渡って老町田方面へ抜けるために橋がかけられました。市制50周年を記念して完成した「あゆどめ橋」です。あゆどめ橋の名は、この橋から100mほど上流にある鮎返しの滝に由来します。

清住緑地 きよすみりよくち

市の西の端、清住町の湧泉地に、自然観察園清住緑地があります。西側には境川が流れていて、広さは約85a、北側に1カ所と南側に4カ所の湧水口があります。

ここにはムクノキ、エノキなどの樹木が自生し、キショウブ、ジズタマなどの低湿地の植物や、オランダガラシ、ヤナギモなどの水中の植物を見ることができます。周辺には、カワセミ、カルガモが生息しています。

雲助徳利の墓 くもすけどくりのはか

現在、山中新田東端の老杉の下にあり、徳利と杯を浮き彫りにした雲助徳利の墓です。

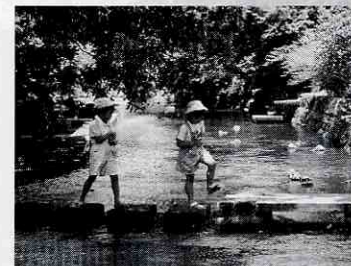
墓の主は久助という人で、雲助の頭役となり仲間を取締りしていたがめんどうをよくみたので、仲間の者、街道沿いの百姓、商人からも厚い信頼がありました。「終生酒を愛し酒を楽しみ、酒の中で一生を終わった雲助の頭役の墓」ということで徳利と杯を浮き彫りにした墓になっています。

源兵衛川 げんべえがわ

楽寿園湧水群を水源とし、温水池に注ぐ約1.5kmの源兵衛川は灌漑用水路で、中郷地区の農業用水のために、流路の一部が人工的に作られた川で、いつ造られたかは不明です。川の名前は、水田用に河川工事を行った寺尾源兵衛に由来すると言われています。

川の中を散歩できるように置き石があり、

市民や観光客が多数訪れ、子供たちのよい遊び場にもなっています。水環境整備のための見学、視察の人たちも、全国各地から多く訪れています。



孝行犬の墓 こうこういぬのはか

幕末のころ市内芝本町の円明寺に犬の母子が住んでいました。お寺の本堂の床下に母犬の多摩、子犬の登玖、都留、摩都、左登、富寺、6匹が番犬として寺を守っていました。子犬の富寺が病気で死んでそのあと母犬も病気になるてしまいましたが、子犬たちが母犬のそばで離れないでいました。

子犬たちは町の人々から食べ物ももらっても食べないで持ち帰り、母犬に与えました。母犬が死んでも子犬たちはそこを離れず屍を守りましたが、子犬たちも死んでしまいました。寺の日空上人がそれを見て母子6匹のために石碑を建てその純情を表彰して世の中の人に誠めとしました。

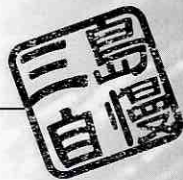
国立遺伝学研究所 こくりいでんがくけんきゅうじょ

遺伝学研究所は、遺伝学に関する基礎的研究と人材育成を目的に、昭和24年に文部省の所轄機関として設置されました。研究所の構内には、260種余り400本近くのサクラが植えられています。

これほど多くの品種のサクラが1箇所に植えられているところは世界でも珍しいことです。

「三島市の花」であるミジマザクラは、この研究所で竹中要博士が、ソメイヨシノの起源を知るための研究の課程で生み出されたサクラです。

毎年4月の科学技術週間には、研究所の一部を一般に公開しています。



御殿川 ごてんがわ

御殿川の名前は、第三代將軍徳川家光が宿泊するために造ったという御殿の東側を流れていたことに由来しています。

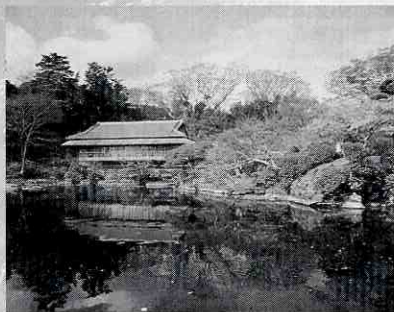
御殿川は菰池公園や白滝公園周辺の湧水が水源とみられ、白滝公園そばの水門で桜川から分水しています。

街中のあちこちに顔を出すせせらぎは、通りを行く人々の心を和ませてくれます。また川沿いに住む人々は、それぞれ家の庭や台所に水を引き込み利用してきました。石造りのカワバタ(川端)が、現在も残っているところもあり、往事のままの姿を見ることができます。

小浜池 こはまいけ

楽寿園内にある小浜池は、昭和の始めごろまでは三嶋大社例大祭のとき神職たちの禊場となっていました。湧水の量が豊富で、昔から源兵衛川、四ノ宮川、蓮沼川の水源として近郊の水田を潤していました。一年中涸れることはなく、せりの瀬、中の瀬、はやの瀬では、水遊びを楽しむ子供たちの歓声でにぎやかでした。

昭和30年代後半ごろからの上流での汲み上げなどの理由で湧水量が減り、近年は残念なことに池の底の溶岩が露出していることが多くなりました。



さ 桜川 さくらがわ

菰池と白滝公園を源流とする桜川は、三嶋大社西側の祓所神社の脇を通り、南へと流れ

ています。

豊かな湧水が溢れていたころは、この辺りは小舟も浮かび、水の三島の情緒を楽しむ人々ににぎわったそうです。白滝公園付近は昭和の終わりごろまでは「水上」と呼ばれ、川沿いには桜が植えられていて「水上桜ヶ丘」とも呼ばれ、川名の由来となっているようです。

現在、川沿いの道に、柳が植えられ「柳通り」と呼ばれています。美しく手入れされた花壇とともに、太宰治や若山牧水など三島ゆかりの文学碑も並び「水辺の文学碑」として、多くの観光客が足を止めています。

佐野美術館 さのびじゅつかん

佐野美術館は、三島出身の実業家佐野隆一氏が私財を投じて、昭和41年に開設しました。

故郷三島をこよなく愛し、湧水の豊かな地に回遊式庭園を、さらに隣接して美術館を建て、長い間収集した各種の美術品ともども、広く市民に活用されることを願って、財団法人佐野美術館に寄贈しました。

収蔵品の特色は、その多彩さにあります。日本刀は特に名品が多く、その他東洋の工芸品を中心に、それぞれ系統立てて集められています。展示会は、美術館独自のコレクションを生かした企画展と、幅広い分野にわたる特別展がほぼ1ヶ月ごとに開かれています。

下田街道 しもだかいどう

下田街道(旧国道136号)は、三嶋大社の大鳥居を起点として大場・葦山・大仁・修善寺・湯ヶ島を通過して下田に至る、ちょうど伊豆半島の真ん中を通る17里14町(約70km)の道のことです。

江戸時代中期までは天城街道とも呼ばれ、源頼朝が三嶋大社の修復に併せて文治2年(1186)に作ったと伝えられています。

頼朝が源氏再興を祈って三嶋大社に百日祈願のため葦山三島間を往復したので、街道筋には頼朝にまつわる伝承地(妻塚・間眠神社・手無地藏など)が多く見られます。

現在、伊豆半島・下田方面への観光道路として交通量が激増したためバイパスができ、今ではこのバイパスが国道136号となっています。



白滝公園 しらたきこうえん

白滝公園には大きなケヤキの木々があり、夏には心地よい木陰を作っています。足元には溶岩が露出し、あちこちに富士山からの地下水が湧き出し、少し離れた菰池からの湧水と合流し、桜川になります。

かつてここは三島の一大湧水池で、楽寿園と一体の溶岩の上にてきた森林でした。しかし昭和9年JR三島駅への道路によって分断され孤立した水源地となりました。湧き出る水量が多く滝のように流れ落ちることから「白滝」と呼ばれたのが名前の由来です。

7月15日、16日には、近くの芝岡、浅間の両神社の祭りに合わせて水祭りがにぎやかに開かれ、灯籠流しなども行われています。

接待茶屋 せったいちや

国道1号(箱根西坂の山中新田上)の大きくカーブしたところに、「接待茶屋」というバス停があります。

「箱根の山は天下の剣」と言われたほど、箱根は関所あり急な坂道ありで、旅人にとっては非常に苦勞の多い大変な山越えでした。

こうした苦勞を目の当たりにして、文政5年(1822)江戸呉服商人加勢屋与兵衛(当時74歳)は基金500両を幕府に出し、この利息で一般の人には湯茶を、馬には飼葉を接待しようと考えました。そして、文政7年(1824)に山中一里塚と箱根町の畑宿に接待茶屋を設置しました。

与兵衛亡き後も、茶屋の運営は多くの篤志家たちによって受け継がれ、昭和25年(1950)まで続けられました。

た 大根干し だいこんほし

大根干しは箱根西麓の冬の風物詩です。昭和の初めころ、平井源太郎が「農兵節」とともに箱根のだいこんを大々的に世に売り出しました。箱根西麓は、火山灰土が積もってできた土地で、根を深くはるだいこんの栽培に適し、おいしいだいこんができることで有名です。

毎年12月に開催される箱根大根まつりは、多数の来場者でにぎわっています。

また三ツ谷付近は、富士山をバックにした大根干しの風景写真を撮りに日本中からカメラマンが集まる人気スポットです。



竹倉温泉 たけくらおんせん

竹倉温泉には、昭和11年頃から開業した3軒の温泉旅館があります。

泉質：単純・鉄泉(弱酸性)
効能：リュウマチ性疾患、神経痛、腰痛、婦人病などに効くと言われています。

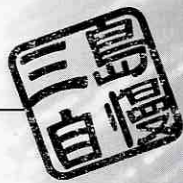
鉄分の多い赤茶色を帯びたお湯はやや熱めに沸いていて、いつまでも体がほかほかとして湯冷めしにくいのが特徴です。日帰り入浴もできます。

東海道 とうかいどう

鎌倉時代に源頼朝は険しいけれど距離が短い箱根路の開発を進め、三社(三嶋明神、箱根権現、伊豆山走湯権現)詣でなどに利用しました。

頼朝はこの道を鎌倉と京都を結ぶ最重要道路と位置付け、宿駅の新設、整備及び早馬の設置をしました。この箱根路を、現在、平安・鎌倉古道と呼んでいます。

下田街道、甲州街道が交わり、険しい箱根路を控えた三島は、1601年東海道宿駅制度がしかれると同時に重要な宿場となりました。



な

● 中郷温水池 なかざとおんすいち

昭和28年に国、県の事業として建設された中郷温水池は、稲作用水としては冷たすぎる湧き水を温める池です。

楽寿園の小浜池に湧き出した水は、全長約1.5kmの源兵衛川を流れ温水池に注ぎます。太陽熱によって温められた水は、池の南に広がる中郷地区の田畑へ4筋の用水路によって給水されます。池には中島があり、周囲には木が植えられ、良く整備された気持ちの良い散策コースとなっています。冬にはカモ類が飛来し、身近な野鳥観察の場となります。また、南端は、逆さ富士が美しく映る絶好の撮影ポイントになっています。

● 長伏公園 ながぶせこうえん

長伏公園は、狩野川の河川敷を含み、多くのグラウンドがあり、野球、サッカーなどの球技をすることができる大きな公園です。遊具などもあり、子供たちの良い遊び場です。

各種イベントの会場に利用され、夏には3種類のプールが開かれ、子供たちの歓声でにぎわいます。駐車場は約200台の駐車が可能。

● 七石 ななせき

- ①山田の鬼石 / ②蛙石 / ③市子石 / ④祟り石
- ⑤笠置石 / ⑥蛇石 / ⑦耳石

● 七原 ななはら

- ①初音ヶ原 / ②国府原=幸原 / ③源氏原
- ④高天原 / ⑤祇園原 / ⑥愛宕原
- ⑦まないた原

● 七木 ななぼく

- ①間眠神社の松 / ②法華寺の松
- ③石神(おしゃもじ)社の松 / ④三嶋神社の楠
- ⑤陣屋のけやき / ⑥道満塚の松
- ⑦清明塚の松

● 農兵節 のうへいぶし

「富士の白雪ノ一工」の文句で知られる三島農兵節の起源は比較的に新しく、元歌は嘉永年間(1848~1854)すでに三島地方の盆踊り唄や、地唄として唄われていたとされています。

節まわしは、幕末の葎山代官江川担庵が幕府の許可を得て調練した農兵の曲に採用したものです。

は

● 箱根旧街道石畳 はこねきょうがどういしだみ

「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川…」この唄が示すように、箱根は大井川と並ぶ東海道の2大難所でした。

箱根八里といわれたこの街道のうち、三島市に属する部分は箱根峠から西です。この峠は伊豆と相模の国境で、峠の小田原側を東坂、三島側を西坂と言いました。金谷宿の金谷坂(静岡県島田市)にも部分的に石畳があるが、本格的に石畳が敷かれた場所は箱根だけです。



● 箱根西麓野菜 はこねせいろくやさい

箱根西坂五ヶ新田(山中新田・笹原新田・三ツ谷新田・市ノ山新田・塚原新田)は元和年間(1615~1624年)に箱根越えをする旅人を助ける為、開拓されました。

東海道線の開通(明治22年)以後は箱根を歩いて越える人が減り、生計の途を農業に求めていきました。箱根山麓の火山灰土は根菜類の栽培に適しているため、じゃがいも・人参・大根・さつまいも・白菜などの生産地として広く知られています。

● 蓮沼川 はすぬまがわ

全長約1kmの農業用水路として作られ、流



域で蓮が植えられていたことから、第2次世界大戦後、蓮沼川という正式名になりました。小松宮別邸があった楽寿園の小浜池を源流とすることから、「宮さんの川」とも呼ばれています。水が豊かに流れていたころは、周辺の人々の大切な生活用水であり、子供たちの夏の遊び場でもありました。

● 平安鎌倉古道 へいあながまくらこうどう

平安時代の延暦21年(802)の富士山の大量噴火によって、足柄路が約1年間閉ざされ、かわりに箱根路が開通され、京の都と関東を結ぶ道は一時的に箱根を越える道が使われるようになりました。その後、源頼朝が鎌倉幕府を開いた際、この道は、鎌倉街道の1つとして整備され、建久5年(1194)鎌倉と京都を結ぶ63の駅を持つ東西の交通の要となりました。鎌倉街道は、「いざ鎌倉」というときに馳せ参じた軍道であり、道筋には豪族の居館や寺社などが多く見られるのが特徴です。

ま

● 間眠神社 まどろみじんじや

稲荷神社の祭神である豊受姫命を祀った間眠神社は旧二日町(現、東本町)にあります。源頼朝が、伊豆の蛭ヶ小島に流されていたとき、三嶋大社に源氏再興の願を立て、参詣の途中、この神社の境内の大きな松の木の根元で仮眠をしたことから、間眠神社と言われます。

● 三嶋曆師の館 みしまこよみしのやかた

三嶋曆は、旧曆を代表する曆で、歴史の古さは京都の版曆「大經師曆」より古く、都で「みしま」は曆の代名詞だったそうです。

三嶋曆は、古くから仮名文字であったこと、木版刷りの品質がよく、細字の文字模様が美しいことなどから、旅の実用書、みやげとして好まれ広く普及しました。

奈良時代の頃に京都から移住してきたと云われる河合家が三嶋大社の東側にあります。古くは国の祭事を司る役と同時に庭の一角

に天文台を建て、屋内には作業場を設けて代々、三嶋曆を製造販売してきたと伝えられています。

三島市ではこの歴史ある建物を河合家から寄贈されたのを機に整備し、曆の歴史・文化に親しめる場所として平成17年4月に「三嶋曆師の館」としてオープンしました。

● 三島宿 みしましゆく

三島は古くから栄え、三嶋明神の門前町として大変な賑わいを見せていました。

慶長6年(1601)徳川家康は宿駅制度を作り、三島宿は江戸日本橋から数えて第11番目の宿駅に指定されました。その後、第三代将軍家光が参勤交代を制定し、各大名の東海道往来が多くなり、箱根に関所が設けられると三島宿は江戸防衛の役割を担うようになりました。

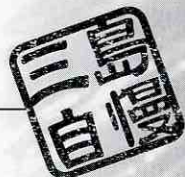
また、東西を結ぶ東海道と南北を結ぶ下田街道・甲州道との交差する位置にあった三島宿は、さまざまな地域の文化や産業の交流地点にもなっていました。伝馬、久保、小中島、大中島の4町辺りが宿の中心地で、実際の運営もこの4町が核となり行われていました。

● 三嶋大社 みしまたいしや

古くから現在地に「三嶋神社(三嶋明神)」として大山祇命と事代主命とが祀られています。

源頼朝が伊豆に流されていたとき、源氏の再興を願って祈願に通い、治承4年(1180)、旗挙げを果たしました。鎌倉幕府の将軍になってからも祭事の復興、社殿の造営を行うなど厚く信仰し、鎌倉時代を通じて幕府崇敬の神社となりました。





境内の面積は1万5千坪で、社殿・建造物は、うっそうとした森に囲まれています。
三嶋大社は日本の名社の1つに挙げられ、初詣の人出は約50万人で、毎年静岡県一です。

三島梅花藻の里 みしまばいかものさと

水のきれいな所でしか生育しない「ミシマバイカモ」は楽寿園の小浜池で発見され、梅の花の形に似ていることからこの名前がつけられました。可憐な白い花を咲かせる貴重な植物です。

三島囃子 みしまばやし

天文年間（1532～1555）三嶋明神の舞女役であった幸若与惣太夫によって創曲され、神領内に住む若者達に伝えられたといわれています。しゃぎりの音調はあくまでも高く、勇壮活発で、山神霊をなぐさめるに相応しい野性的なスピード感にあふれています。三島ばやしは次の7曲にわけられています。
①里ばやし…新春を寿ぐ神楽ばやしに類似しおだやか／②吉野ばやし…春の桜花爛漫の頃をテーマと考えられて陽気／③道ばやし…五月頃の道中と想像されてのどか／④山ばやし…夏山を巡航する修験者の激しい行動の姿で勇壮／⑤松ばやし…松の梢に鳴る秋風の哀れを表現した名曲／⑥時雨ばやし…初冬の時雨の風景を材にした能楽風／⑦祇園ばやし…七月の祇園会に供する静かな曲

水の菟緑地 みずのそのりょくち

源兵衛川の中流に沿った親水公園です。数カ所の湧水や、竹やぶなどの自然を生かした公園です。川沿いに草木が多く、水と緑が調和し四季折々の美しさが楽しめます。小さな池もあり、コサギ、カワセミ、カモなどが見ることが出来ます。

三石神社 みついしじんじや

昔、源兵衛川の川沿いに三石という巨石が

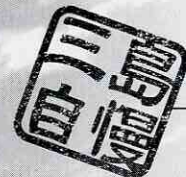
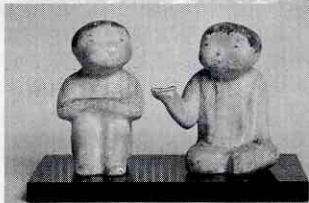
あり、その上に社殿を建て稲荷社を祀り、三石神社となりました。古記によれば天明年間（1781～1789）に、隣村の新宿の出火で大中島町（現、本町）や三島宿の大半が類焼したときに、火防の神も併せ祀ったようです。境内にある鐘は「時の鐘」といわれ、江戸時代から旅人や三島の人に親しまれています。

妙法華寺 みょうほっけじ

この寺は日蓮宗本山で、日蓮上人の第1の弟子、大成弁日昭上人によって、およそ700年前に鎌倉で建てられ、その後、越後、伊豆加殿村を経て元和7年（1621）、この地に移転され大成されました。現在の伽藍は百数十年前に、第41世日桓上人によって再建されたものです。
スギやマツの古木に囲まれた境内は、およそ2万坪（6.6ha）あり、重厚な石垣に名勝百箇壱を巡らして風格ある昭光門、法殿（本堂）、祖師堂、大書院、大庫裡、宝物館、さらに駿府城内にあったお万の方の居間を移築した奥書院などが建ち並んでいます。

三四呂人形 みよろにんぎょう

三島出身の人形作家、野口三四郎が創作した芸術人形です。作品は日常の子供の遊びを扱ったもの、家族の愛情をあらわすもの、愛娘の桃里をしのぶものなど、多くはふるさと三島と子供に求めています。和紙を張った、淡い彩色の温かみのある人形からは、古きよき時代の三島の雰囲気を感じられ、素朴で愛らしい童話の世界を作り出しています。
作品が紙と糊でできているため、戦後の混乱期を経て保存されている作品は数少なく、現在、確認されているものは100点ほどといわれ、市内に残る24点は三島市指定文化財になっています。



向山古墳群 むかいやまこふんぐん

向山古墳群は平成3年の発掘調査により、円墳11基・前方後円墳1基の計12基が確認されました。向山古墳群の大きな特色は、横穴式石室が造られる以前の古い形式の埋葬施設で、木棺直葬といって、遺体を入れた木棺を、直接古墳の盛土の中に埋めたものです。
昭和50年、向山小学校建設中に発見され、2基の円墳からは、鉄剣・鉄刀・鉄鍬が出土しました。



八小路 やこうじ

①阿闍梨小路②間屋小路③上の小路④下の小路⑤金谷小路⑥細小路⑦竹林寺小路⑧菅小路
江戸時代、この八小路の名前をすらすら言えれば、三島人の証明として箱根關所を手形無しで通してくれたという逸話があります。天下の大通りである「四辻」に対して、八小路は生活感のただよう「裏通り」であったと思われる。

山中城跡 やまなかじょうあと

山中城は16世紀（戦国時代）、箱根山西麓に番城として、小田原城を本城とする北条氏康によって築城されました。
駿河湾を一望におさめ、田方平野にある葦山城までも眺められた堅城でした。さらに城内では、自然の谷筋を生かした数々の堀、曲折した通路、鉄砲の活用を重視した造作などが工夫されました。しかし、このように万全を尽した城もわずか1日で陥落しました。天下統一の最終戦として、小田原を征服しようとした豊臣秀吉は、徳川家康を味方にし、天正18年（1590）3月29日、北条氏4,200の兵に対し、家康軍3万を合わせて7万の兵を率いて攻め落



しました。昭和9年に国の指定史跡となり、昭和48年から18年の歳月をかけて発掘、調査、整備を行いました。
昭和56年に城跡公園として市民に開放され、四季折々の姿を見せています。つづじの咲く5月には山中城祭りが開かれます。



楽寿園 らくじゅえん

三島駅南口に降り立つと、三島市立公園「楽寿園」のうっそうとした森がすぐ前に広がっています。広さは2万坪で、園内には、楽寿館、小浜池、日本庭園、万葉の森、遊園地、動物園、三島市郷土資料館などがあります。約1万4千年前、富士山の噴火で流下した溶岩がこの地で止まり、急激に冷却された縄状溶岩や餅状溶岩が園内で見られます。この岩盤の上に植物の種子が落ち、芽を出して大きくなった160種類以上の樹木が自然のまま成長し、30数種以上の野鳥がこの森にすんでいます。このように都市部に自然林がそのまま残されているということは大変珍しいことで、三島の宝物です。
溶岩下の末端や隙間から湧き出る富士山の雪解け水と自然林を生かした庭園は、昭和29年に、国の天然記念物及び名勝に指定されました。

龍澤寺 りゅうたくじ

臨済宗妙心寺派の寺で、白隠禅師により、宝暦11年（1761年）9月に開山されました。龍澤寺住職は代々老師として称えられ、多くの雲水の修行を導くとともに、日本全国から各界名士の来訪を受け、仏法の教えを説いています。
毎月7のつく日は三島市内を「報恩」と唱えながら、托鉢して歩く僧の姿が見られます。
毎年11月23日の観楓祭には、寺所蔵の掛け軸等の一般公開が行われます。白隠老師をはじめ、一休、良寛、円山応挙などの書や絵が本堂の各部屋にびっしり並んで掛けられるので、それらを見ようとたくさんの人々が訪れます。

三島市 眺望地点

三島市では、都市景観条例に基づき、富士山その他の三島特有の景観を眺望できる地点7箇所を指定しています。眺望を守るため、市全体で整備・保全に努めています。この指定は、今後も継続的に行われます。



温水池から見る富士山

① 末広山 すえひろやま

箱根西麓から田方平野、駿河湾そして愛鷹山や富士山を見渡すことのできる眺望の美しさに訪れる人は後を絶ちません。

② 山中城跡 やまなかじょうあと

昭和9年に国の指定史跡となり、昭和56年から城跡公園として開放されている同所は、富士山はもとより駿河湾も一望できます。

③ 施行平 せぎょうだいら

国道1号のバス停から箱根旧街道に入った箱根八里記念碑の周辺の同所は、古来より遠望の地として人々が訪れる風光明媚な場所です。ハコネザサが群生し、富士山の眺望を楽しみながらくつろげる空間が広がっています。

④ 中郷温水池 なかざとおんすいち

温水池は湧き水を稲作用水として利用するために水を温める池として、昭和28年に国、県の事業として建設されました。最近では再整備され、周囲に植栽が施された気持ちのよい散歩コースとなっていて、南端は逆さ富士が美しく映る絶好の撮影ポイントとなっています。

⑤ 向山古墳群 むかいやまこふんぐん

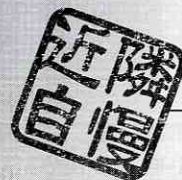
向山古墳群は昭和50年、向山小学校建設中に発見された、市内で最も古い古墳群で、5世紀後半から6世紀前半の古墳時代中期のものと考えられます。ここからは、市街地と富士山が一望できます。

⑥ 新町橋 しんまちばし

江戸時代は、この橋は東海道五十三次の三嶋宿の出入り口になっていました。浮世絵師の安藤広重もここから見た雪景色の富士山を描いています。

⑦ 新城橋 しんじょうばし

新城橋は、狩野川にかかる全長230mの橋で、三島市最南端に位置する場所です。この場所は、江戸時代には、伊豆の国を結ぶ交通の要所となっていました。



きんりんじまん

柿田川湧水群 (清水町)

日本の自然百選に選ばれた柿田川湧水群は、川幅30~50m、約1,200mの河川となって狩野川に合流します。

湧出量は1日120万トンといわれ、東洋一を誇り、1年中ほぼ15度という水温を保っています。流域に豊富な自然環境を作り、貴重な生態系を維持しています。

クレマチスの丘 (長泉町)

気品ある白花のクレマチスが主役のガーデンをはじめ、3つの美術館、匠のレストラン、自然公園などが点在しています。ガーデン散策をはじめ、アートとの対話、そしておいしい空気を感じながらゆっくりと「食」を満喫するなど、一人ひとりが思いのままに素敵な休日をご過ごすことができます。

静岡サッカーミュージアム (長泉町)

静岡サッカーの栄光の軌跡をたどり、日本サッカーの未来を見つめる展示がされています。入館無料で全国から多数のサッカーファンが集まっています。

富士竹類植物園 (長泉町)

4万㎡の緑あふれる広大な敷地の中に、日本国内や世界各地から集めた約500種の竹が観察できる日本唯一の竹の植物園です。

県立がんセンター (長泉町)

平成14年に開院したこのセンターでは、トップレベルの医療技術者が最新の医療機器と診療システムを駆使し、がんの治療にあたっています。同時に様々な支援施設を充実させ、患者さんや家族の心を大切にする医療を実践しています。

またこの地域を中心に、県では恵まれた交通インフラや自然環境、健康関連産業の集積を背景に、世界レベルの高度医療・技術開発を目指して先進的な研究開発を促進し、医療からウエルネス産業にいたる先端健康産業の振興と集積を図るファルマバレー構想を推進しています。

畑毛温泉 (函南町)

畑毛温泉は効能豊かな国民保養温泉として湯治客にも有名です。「入ってよし、飲んでよし」と

言われるこの源泉は、良質の薬用温泉です。源頼朝が軍馬の疲れを癒したという言い伝えもあります。

函南原生林 (函南町)

ここは、江戸時代から永らく樹木の伐採が禁止されていたため原生林の趣を残しています。今は200ha以上の面積が保護されており、500種以上の植物が繁茂しています。

沼津御用邸記念公園 (沼津市)

明治26年に造営され、明治・大正・昭和の三代にわたって使用されたもので、記念公園として整備し、一般公開しています。皇室の薫りたたく園内の散策や、当時のままに復元・修復した建物や調達品の見学などが楽しめ、多くの来園者を集めています。

びゅうお (沼津市)

沼津港の新しい顔です。津波から市民を守る日本最大級の大型水門に、360度の眺望を楽しめる展望施設が併設されています。

愛鷹山・富士山・箱根連山・沼津アルプス・我入道海岸・駿河湾・大瀬崎と大パノラマが楽しめます。

反射炉 (伊豆の国市)

江戸時代末期に作られた大砲鑄造のための溶鉱炉。炉の内部をのぞくと、天井が耐火レンガのアーチ積みになっています。この湾曲によって熱と炎を反射させ鉄を溶解したことから反射炉と呼ばれている。

芦ノ湖 (箱根町)

約40万年前の箱根火山のカルデラの中にできた細長い湖で、南岸の杉並木街道から眺める逆さ富士は有名です。近隣には成川美術館やポーラ美術館等人気の美術館がたくさんあります。

箱根神社 (箱根町)

天平宝字元年(757)、万巻上人により創建され、関東の総鎮守として代々の武将に崇拝されました。源頼朝が三社参り(三嶋神社・箱根神社・伊豆山神社)するために使ったとも言われています。

外国語 Q&A

日本語	英語	韓国語	中国語
日本へようこそ	ウェルカム トゥ ジャパン Welcome to Japan.	일보네 오신 고틀 환영합니다. 일본에 오신 것을 환영합니다.	ホァンイングァンリンリーベン 歡迎光臨日本
いらっしゃい	ウェルカム Welcome.	오시 오십시오. 어서 오십시오.	ホァンイングァンリン 歡迎光臨
こんにちは	ハロー Hello.	안녕하세요. 안녕하세요.	ニーハオ 你好
おはようございます	グッド モーニング Good Morning.	안녕하십니까? 안녕하십니까?	ツァオ ジャン ハオ 早上好
はい	イエス Yes.	네 네	スードッ 是的
いいえ	ノー No.	아니오. 아니오.	フー スー 不是
承知しました	イエス Yes.	알겠습니다. 알겠습니다.	ツァオ 知道
しばらくお待ち下さい	ウェイト ア モーメント プリーズ Wait a moment please.	참시만 기다려 주십시오. 잠시만 기다려 주십시오.	チンジャオドゥン 请稍等
はい、あります	イエス ウィー ハブ イット Yes, we have it.	네, 있습니다. 네, 있습니다.	ヨウ 有
いいえ、残念ながらありません	アイム ソーリー バット ウィー ドント ハブ イット I'm sorry, but we don't have it.	아니오, 죄송하지만 없습니다. 아니오, 죄송하지만 없습니다.	ドゥェ ブチ、メイヨウ 對不起、沒有
どういたしまして	ユア ウェルカム You're welcome.	천만에요. 천만에요.	フククチ 不客氣
こちらへどうぞ	ディス ウエイ プリーズ This way, please.	이리 오십시오. 이리 오십시오.	ツァ ピュン チン 這邊請
荷物をお持ちします	レット ミニ ヘルプ ユー ウィズ ユア パッケージ Let me help you with your baggage.	차uml 마크겠습니다. 차uml 마크겠습니다.	ウォティンナーンシリ 我替您拿行李
ごゆっくりお過ごしください	プリーズ エンジョイ ユア ステイ Please enjoy your stay.	스गत게 체넉십시오. 스गत게 체넉십시오.	チンニグォドゥクワイ 祝您過得愉快
おやすみなさい	グッド ナイト Good Night.	안녕히 주무십시오. 안녕히 주무십시오.	ワンアン 晚安
失礼ですが	パードン Pardon?	실례합니다만 실례합니다만	ドゥェ ブチ 對不起 (不好意思...)
筆談で伺います	プリーズ コミュニケート イン ライティング Please communicate in writing.	필답으로 문겠습니다. 필답으로 문겠습니다.	ズージャオリウ 筆談交流
どうしましたか	キャナイ ヘルプ ユウ Can I help you?	어떻게 하셨습니다? 어떻게 하셨습니다?	ツェン マラ 怎麼了
これをどうぞ	ヒア ユウ アー Here you are.	이것을 받으십시오. 이것을 받으십시오.	ゲニン 給您
英語が日本語は話せますか	ドゥ ユウ スピーク イングリッシュ オア ジャパニーズ Do you speak English or Japanese.	영어나 일어를 하십니까? 영어나 일어를 하십니까?	ホィシュオリー ユィ ホォイン ユィマ 會說日語或英語嗎
英語/韓国語/中国語は話せません	アイム ソーリー バット アイ ドント スピーク イングリッシュ I'm sorry but don't speak English.	한국어는 못합니다. 한국어는 못합니다.	ブゥ ホィ シュオ ソン グォオ ホフ 不會說中國話
さようなら	グットバイ Good-bye.	안녕히 계십시오. 안녕히 계십시오.	ツァイ ジェン 再見
ありがとう ございました	サンキュー ベリー マッチ Thank you very much.	감사합니다. 감사합니다.	シェ シェ 謝謝
よいご旅行を/よい一日を	ハブ ア ナイス トリップ/ハブ ア ナイス デイ Have a nice trip./Have a nice day.	좋은 여행 되십시오./좋은 하루 보내십시오. 좋은 여행 되십시오./좋은 하루 보내십시오.	ツァリェットゥクワイ/ツァニンクワイ 祝旅途愉快/祝您愉快

三島市 イベント ガイド

とこ とき	まちなか	楽寿園	三嶋大社	箱根西坂	その他
一月	●正月感謝祭	●野鳥観察会	●田祭 ●酒神社例祭振舞酒 ●開運祈禱祭 ●奉射祭 ●とんどん焼	●JR七草 ウォーキング	
二月	●地口行灯と新春 開運初午ツアー (中心市街地商店街)	●春の小品盆栽展 ●雪割草展	●節分祭 ●追儺祭鳴笛式 ●針感謝祭 ●祈年祭		●観梅会(隆泉苑) ●みしま生活展 (市民体育館)
三月		●東部鉢花展覧会 ●洋らん展	●桃節句祭 ●神鹿記念祭		
四月	●門前町まびす参道 さくら祭り (下田街道) ●ストリートギャラリー	●春の山草祭り ●春の動物ふれあい ●えびね展	●鎮花祭 ●稚児健康祈願祭 ●稚児行列 ●献茶式 ●水産祭 ●酉祭	●たけのご祭り (市の山新田)	●国立遺伝学研究所 一般公開 ●春のみどりまつり
五月	●春の大通り 商店街まつり	●人形劇 フェスティバル ●野鳥観察会 ●春のさつきまつり	●端午祭	●山中城まつり ●JRさわやか ウォーキング	●無料入館 (佐野美術館)
六月	●リメンバー六反田 (広小路栄栄通り) ●waiwai遊広場 (芝本町商店街) ●一番町夜市ホテルまつり (TMOホールほか)	●ウチョウ蘭・ 山野草展 ●斑入植物(フィリ ショクブツ)と キボウシ展	●祓所神社例祭 ●夏越の大祓		●水と堂と福祉祭り
七月	●七夕夜市 (三石神社ほか)	●開園記念感謝デー	●八坂大神出御祭	●三島馬鈴薯まつり ●芝切地蔵睡蓮祭り (山中新田)	●富士登山道開山式 ●お天王祭(大場) ●水まつり (白滝公園)
八月	●三島夏まつり ●大場ふれあい広場 ●幸原商店街商業祭 (JA北上支店)		●三嶋大社例祭 ●流鏝馬 ●手筒花火 ●頼朝旗揚げ陣式 ●献茶式		●ウォークふらり〜 (源兵衛川ほか)
九月	●門前町 下田街道祭り	●秋の動物ふれあい	●木犀の夕		●65歳以上無料 (佐野美術館) ●十五夜の宴 (佐野美術館)
十月	●ストリートギャラリー	●秋の小盆栽展 ●水石展 ●秋の山草まつり ●菊祭り		●親子いもほり	●十三夜の宴 ●秋のみどりまつり
十一月	●秋の大通り 宿場まつり ●まびす講大市 (三嶋大社前)	●秋さつき展	●七五三祝祭 ●恵比寿講祭 ●新嘗祭 ●酉祭		●市民すこやか ふれあいまつり ●観風祭(龍澤寺)
十二月			●師走の大祓 除夜祭	●箱根だいこん祭り (坂公民館)	●箱根の里まつり (箱根の里) ●市民除夜祭 (三石神社)

●...上旬 ●...中旬 ●...下旬 開催時期は変更する場合があります。